

「レビューをレビューする」(大臣との意見交換会)学生レポート

訪問日時:2016年2月25日 午後4時から6時

参加者 大阪大学赤井ゼミ21名(2・3・4年)+引率教員2名

赤井ゼミでは、これまで4年間、模擬事業レビューとして、大学生が、評価者となり、国の事業の評価を行う試みを実施してきた。¹学生が、行政改革推進本部に乗り込み、「レビューをレビューする」とのタイトルで、大臣に対して、本部の取組の一つである行政事業レビューに関する提言を行った。

平成28年2月23日(火)

内閣官房行政改革推進本部事務局

河野行革担当大臣と学生との意見交換会の実施について

現在の行政事業レビューの取組について、大阪大学赤井伸郎(行政改革推進会議歳出改革WGメンバー)ゼミ所属の学生と河野行革担当大臣以下行革事務局職員との意見交換会を、下記のとおり実施しますので、お知らせします。

記

1. 日 時 : 平成28年2月25日(木) 16:00~18:00
2. 出席者 : 河野行政改革担当大臣^{*}、行革事務局職員、
赤井伸郎 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授、
大阪大学赤井ゼミ所属学生21名 など
※大臣の出席は、状況により変更となる場合があります。
3. 内 容 : 「レビューをレビューする」(「秋のレビュー」など3つのテーマ
について、学生側が評価や改善案を提案し、議論。)
4. 場 所 : 中央合同庁舎第8号館 8階 特別大会議室

¹ 詳細は、<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/3841/mogishiwake.html>





内閣官房行政改革推進本部の協力のもと、「レビューをレビューする」と題して、行政改革推進本部で行われている「行政事業レビュー」の試みのあり方についての提言を行った。提言は、「公開プロセス」「秋のレビュー」「フォローアップのあり方」という3つのテーマに関して行った。「レビュー」は事業のあり方を議論する試みであるが、その「レビュー」自体を評価するという初の試みであった。どのようになるのか不安の中での開催となったが、学生提案に対して、省庁側と学生側とで活発な議論がなされ、得られたものは多かったようである。初の試みということであり、学生の事前準備も十分ではなかった面や、議論のあり方などで改善点も見えた。ただ、課題が見えたという点では、大きな前進である。また、レビュー自体も、公開で行うことを目的とする限り、どのターゲットに向けてどのような中身を公開し、公開することの効果を高めていくのが鍵であることが明確となった。

学生番号	今回の「レビューをレビューする」企画における準備段階・発表・議論から感じたこと、学んだこと：満足度評価（15…大満足、4…「満足」、3…「普通」、2「やや不満足」、1「不満足」）の理由、発表・議論で得られた・感じたことなど。	
1	4	<p>今回議論の中で行革事務局の方がおっしゃっていたことで心に残ったのは、「自分たちから政府広報という形ではなく、いかに報道されるように仕向けていくかが大事」、「動画を編集するのにも、ありのままを見せないことに抵抗がある」というお言葉でした（正確な文言は覚えていませんがこのようなことをおっしゃっていました）。確かに報道されること、またそのように仕向けることは重要で、その方向性は間違っているとは思いませんが、もう少し自分たちで発信していく努力をしていくべきだと思います。そしてその手法がより効果的になるのであれば、そこにはお金を投じて外注するなどを考えても良いのでは、と思いました。ホームページなども行革事務局は職員の手作りだと伺いましたし、その作業を行う機会費用で、もっと「内部にいる職員にしかできない」事業レビューの改善を行っていただきたいと感じました（実際に普通の働いておられる姿を見たわけではないのではずれであれば申し訳ないですが）。提案とその議論では、学生側と職員側で持っている情報に差があったため、抜本的な改善案や問題点などを提示することが難しかったかなと思います。ただ、行政事業レビューの「全事業をレビューしお金の流れを透明化する。」という長所と、「各事業レベルでのレビューに過ぎず、施策レベル、政策レベルでの議論を行うには向いていない」という短所を再確認できたという点で良いセッションだったと思います。</p>
2	4	<p>私自身は準備にはほとんど参加できなかったのが当日の発表と議論に関してしか言えないが、今回は少し物足りなさを感じた。それは、昨年までのレビューよりも、官僚の方との議論の盛り上がりや乏しかったという印象を持ったからだ。私としては、例年の官僚の方にご協力いただく企画の醍醐味は、政策を日頃から考えている官僚の方たちと私たち学生が、白熱する議論を通して、官僚の方たちの考え方の特徴などを感じることはないかと思う。今回のレビューのレビューは、私たちの提言に対して官僚たちが意見を述べるという意見交換の色合いが強く、どんな政策は優先度が高いのか、多くの政策に共通する問題点は何か、政策の裏にはどんなしらがみがあるのかななどを学ぶ場面は少なかったように思う。レビューの担当者からレビューという仕組みの課題について知ることができたことは貴重な経験だったが、例年よりも感動は少ないように感じた。</p>
3	5	<p>準備段階や発表に関して、膨大な資料をもとに今ある知識や考えを併せて、レビューのレビュー内容を学生がまとめ上げていくのは非常に難しそうだと感じた。しかし、当日の発表や意見交換を通じて、どうしたら女性の政治関心を引けるのか、国民に「わかりやすい」ってどのようなものなのか、どのような広報媒体がいいのか等々、官僚の方々も頭を悩ませているということが分かった。また、国の課題は敬遠され、地方の課題の方が関心が高いということに関して、実際に地方（地元）の街活性化や政治活動に積極的に参加している友人も多くいる。しかしそれは、地方がそういった機会や様々なプランを掲げ門戸を大きく開いているからではないかと思った。大臣の意見を生で聞くことで、政治関心はどうしたら集められるのか、より深く考えることができた。</p>
4	4	<p>大臣にもお越しいただき、自分たちの考えに対して講評を頂き、非常に勉強になる貴重な機会であり、実施した価値は十分にあったと思う。ただ、各班が個別のレビューに対して問題点を見つけ、その解決策を提示するという流れであったが、どのレビューも同じような内容に帰結し、班ごとに独自の課題を見つけることに苦労した。また全容を掴むことが難しく、最終的に小さな提言に留まってしまったことももどかしかった。当日の議論でも、こちらの提案をさらに深めていく議論があまりできず、様々な角度からの意見は伺えたが、実際に実現可能な改良案に至るほどの実りの多い議論ができなかったことが残念だった。</p>
5	3	<p>今回あまり準備に関わるができなかったのですが、客観的に見た感想としては、どの班もレビューの流れについて正しく認識できていなかった部分が多かったということです。例えば、私の班では秋のレビューのスケジュールの点で誤解をしている点があり、提言内容の適切性に響いていました。透明性を高めるためには、前もって省庁の方とお話しする機会があればよいのかなと思いました。また、2回生は事業レビューを見たことがないと思うので、班やゼミで事業レビューの鑑賞と気づいた点を議論するような時間をとると、より充実した提言ができると思います。（各々でやればいい話ですが）</p>

6	5	<p>「若者目線」「女性目線」の意見をすくく求められているように度々感じました。ですので、今度はその点に絞って「若者目線で」「女性目線で」レビューはこうあるべき、とターゲットを絞って議論をすると、より学生ならではの感性やアイデアが活かされる議論ができるのではないかと感じました。また、「マスコミによる報道を増やす」や「わかりやすいまとめ動画を作る」という提言にとどまらず、それを実行するためにだれをどのように動かすのかという具体的な進め方まで考えておけるとよりよい提言になったと思いました。それから、全体を通じてあまり定量データや分析を用いた議論に話が及ばなかったように感じました。ゼミの論文で扱っても面白いかなと思いました。(データによる評価が難しいかもしれませんが)</p>
7	4	<p>準備段階では、求められている「学生らしい発想」という点に難しさを感じた。もっと、日々様々な時事問題に関してアンテナを張って生きなければいけないと感じる機会になった。発表では、まさに日本の政治の最先端で戦っておられる河野大臣を目の前にして、非常に緊張した。しかしそれ以上に、今のこの場が政治について勉強してきたことの集大成のご褒美のように感じられ、貴重な機会を与えていただいていることに改めて感謝の気持ちを持った。発表後の議論では、公開プロセスやレビュー、点検について、行革チームの方々が考え抜いて取り組んでおられることがよくわかった。私たちが考えた策はやはり現場から見れば甘く、多くの壁が存在することを認識した。議論については、時間が足りなかったように感じたため、その点で満足度は4にした。河野大臣はもちろんのこと、お相手くださった皆様は非常にお忙しく、このような機会をいただいているだけでも大変有難いことであるとわかってはいるが、議論が充実していたのではおさら、もう少し時間が欲しいと思った。</p>
8	4	<p>提言論文でも考える、政策をやりつばなしにしない、効果検証の取り組みであるレビューについて調べることで学ぶことは多い。例えば、政策効果についての視点は、来年度以降も論文において有効な政策を考えていく土壌になったのではないかと思う。フォローアップ班は、提言対象とする事業が二転三転(フォローアップ全体→重要課題検証→フォローアップ全体)して十分な準備を行えず、また、その変更点が各班に行き届かないことから他班と提言内容に重複が見られた。ここから、急なで難しいとは思いますが、全体としての統括や統一感が必要だったと思った。</p>
9	4	<p>担当者や担当大臣と議論ができたことは非常によい経験となった。外から見ていただけではわからない事情等を知ることができ、また、それを踏まえたくうで担当の方と議論をすることができとても有意義な時間を過ごせたと感じている。特に印象に残っている論点は、どの班も共通して取り上げていた「国民の関心度を高める」という点である。一口に「国民の関心度を高める」といっても、具体的にどの層を対象にすべきか、そのための手段にはどのようなものがあるか、等を詳細に検討することが実務において非常に重要であることを学んだ。しかし評価を一つ下げた理由であるが、準備を十分にすることができず、担当者と対等に議論ができるレベルまで持っていくことができなかったことが反省として残っている。ゼミの時間に他班と各担当の事業の紹介をしあう時間や、共有をしあう時間があればよかったと思う。</p>
10	4	<p>今回のレビューをレビューする企画の準備、議論を通して、まだまだ無駄が多かったり、実施する意義の小さい事業が多く存在し、事業の進捗や事業の意義をチェックすることが必要不可欠であることを感じました。準備段階では、多くの事業の無駄を省き、予算を削減するなど成果を残していることに加え、基金のレビューも行われるようになるなど、毎年企画の改善が図られている一方、国民の認知度の低さ、過密なスケジュールなどまだまだ課題があることが分かりました。しかし、発表、議論においてはその課題、解決策の案を上手く伝えることができず、少し悔いが残りました。次回このような機会があれば、きちんと問題提起をし、しっかりとした議論を行えるように今年1年努力したいと思います。</p>
11	5	<p>今回はかなりの準備不足・知識不足を感じた。ISFJ・期末試験・就職活動のある時期だから仕方ないとはいえ、レビューチームの方々にあれだけ力を入れて望んでいただいたのに満足いくものが作れなかったのが残念。ただ、こちらが感じた課題はやはり当事者の方々も感じているように思ったので、議論の内容については満足いくもので、また大変勉強になった。今回、パブリックコメントの導入を提案したがパブコメには寄せられるコメントの送り主に偏りが生じるといった課題など、実際に業務にあたらなければ分からないことも多く知ることができた。また今回、大臣に来ていただいたことで、ほんの少しではあるが国のかじ取りをする人と意見を交わせたことは、今までにない大変貴重な経験となった。</p>

12	5	<p>今回は初めての企画であったが、大臣をはじめとして多くの方々の協力を得ているだけあって、充実していたように思う。準備に関しては、テスト期間を挟んだ関係でうまくスケジュールが組みにくく、後半に多くの仕事が残ってしまった点を反省したい。担当箇所の範囲が最初に指定されていた箇所と大きく変わったため、対応するのが大変で、班内で十分に話し合うことがなかなかできず、個人個人で作業を進めるのが中心となってしまった。発表内容に関しては、おおむね自分たちの考えを伝えられたと感じているが、一方で私は、そもそもレビューをしなければならないこと自体がおかしいという認識も持っている。本来、政策は市場に任せられないことを公共ファクターが税金を用いて行うことであるから、公平・公正なものであるのは当たり前でなければならない。もちろん、現実的な見方をすれば、様々な利害が存在する中で、何が正しく何が間違っているなどのコンセンサスを取ることは極めて困難であろうが、そのような中であっても、レビューが政治的妥協の場とはなるべきではなく、レビューを政策の公平性・公正性を担保する機関としてとらえ、国民全体にとって何が最も望ましいかを貪欲に追求する姿勢が必要であると考え。こういった観点から、少なくとも「今後検討する」といった回答で済ませてしまうようなことは、国民の納得を得られるようなものではないと考えており、具体的なレベルまでのフォローアップ体制ができるとことを願っている。</p>
13	5	<p>私たちは、今年から始まった重要課題検証のあり方について、調査しました。2015年から始まったものであるため、公開プロセスや秋のレビューに比べて、今後の成果を見ていく必要があります。個々の事業を制度に遡って検証するという特徴を持っていますが、それに似た取り組みとして経済財政再生アクションプログラムというのもあり、今回はそれとどの比較も行いました。公開プロセスや秋のレビューは国民の関心をどう向上させるかという面での提案であったのに対し、私たちは行革のシステムに関する提案でしたが、行革事務局の方たちは国民(特に若い世代)の関心を向上させることや国民への政府の取り組みのアピールを重視している印象を受けました。私たちの提案、制度設計改革について、私たちの提案に対する指摘があまりなかった印象を受け、少し残念な気持ちもしました。似ているシステムが2つあること、各システムの問題点を洗い出して課題や仮説をたてるのが難しかったことなどもあり、準備過程では時間がかかり、発表の間際もプレゼン資料を用意するなど、準備期間をぎりぎりにしてしまったことも反省しています。実際、政策形成のあり方に携わっておられる方たちの生の声を聞くことは滅多にないと思うので、もっと議論が進むように公共政策について今後も勉強を続けたいと思います。政府の行っているレビュー関連事業について、政府の取り組みのあり方を評価しつつも良い意味で批判できるようにしたかったです。そして政府は実現可能性が高く最小限のコストパフォーマンスで済む政策を望んでいると思いますので、そのような視点でより具体的な提案ができるようになりたい。</p>
14	5	<p>全体的に準備が足りなかったと感じた。発表練習も直前にしかできなかった。結果的に何が伝えたいのか、スライドや発表から伝えきれなかったわかりにくくなってしまった。赤井先生からアドバイスをいただきながら、三年生ともある程度議論しながら、アイデアを出しただけに残念だった。当日の議論については、主に「レビューへの関心」というテーマで行われ、事務局の方々が国民の事業レビューに対する関心を上げようと尽力されていることが伝わってきた。発表について、大臣の前ということで緊張したが、これ以上に緊張する場はないだろうと思うとよい経験だったと思う。</p>
15	4	<p>行政事業レビューシートなどでそこそこなじみはあったが、実際にレビューで何を行っているのか？ということやその効果がちゃんと表れているのか？ということを知るのは初めての試みだったので、新鮮な気持ちで取り組めた。私たち介護班は公開プロセスの担当だったが、準備段階ではこの取り組みをどのように評価し、改善すればいいかわからず、班員内でとても悩んだ。結果的に国民の関心が低いことに着目し、改善案を提示したが、実際の発表では、大臣はじめ行革担当の皆さんから具体的な改善について指摘を受けたり、そもそも関心をそこまで上げる必要があるのかということと言われたりしたため、自分の調べと考えるの甘さ、現場の意見の持つ方に圧倒された。このようにレビューをレビューするという作業を通していつものゼミの活動にもつながるような経験ができたことはすごくよかったと思う。</p>

16	4	正直なところ、今回のレビューをレビューするの準備期間に海外に研修に行っていたため申し訳ないことにほとんど携わることができずに、自分自身で秋のレビューについて調べたのがほとんどでせっかくの場を活用できなかったのが悔やまれる。しかし、学生の目線から考えた提案を第一線で働く内閣府職員のかたが真摯に受け入れ、それに対して意見をくれるという貴重な体験をできたことがとても感動した。ゼミのメンバーが内閣府職員や大臣と一歩も引かずに白熱した議論をしているところを見て、来年は自分も先輩がたのようになりたいと思い、また自分の準備不足を後悔した。レビューをレビューするという企画に対しての満足度は高いが、自分自身のいたらなから今回の企画を存分に満足することができなかったので評価を4にした。
17	5	取り組みはじめは、とてもできる気がしませんでした。下調べをしたうえで、先輩方の考えを聞いて、少しずつ追いついていくことができたように思います。私自身、全体的に理解が足りていなかったのも、自分で調べたり、他の人の調べたことを聞いたりするだけで、たいへん勉強になる機会となりました。班の活動を計画的に進めることの助けになれなかったこと、班の活動が活発な時期に積極的に参画できなかったことが今回の個人的な反省点です。発表・議論の際には、やはりこちら側として答えられることよりも、行革側から吸収することが大半を占めていたように思います。今回の場合は特に、こちら側が調べてわかることは当然すべてではなく、実際に行っている側から聞いて初めて知ることが多くあり、理解を深めたうえで議論するためにも、メールでの質問の機会がとても重要なことを実感しました。
18	3	レビューをレビューすることは大切なことだと思いますが、今年度の2年生が来年度の3年生としてゼミに残る以上は、来年も「レビューをレビューする」という企画を行う場合、今年度の政策提言がどうしても頭に残ってしまい、新たに政策提言を考えることは難しく、年度を連続してできないことから、満足度評価を3としました。準備段階で感じたことは、現状分析の大切さです。準備段階の初期から中期にかけては行政事業レビューや秋のレビューがどのようなもので、どのような流れに沿って行われるのか把握できず、議論に加わる土台を作ることが出来なかったため、先輩方の議論を理解するまでに時間がかかってしまいました。
19	4	今回の「レビューをレビューする」という企画に関して自分は個人的な都合から準備・発表にかんして関わらなかったのも、班のメンバーにご迷惑をおかけして本当に申し訳ありませんでした。当日の議論に関しては、インターネット上で配信しているレビューの動画の視聴者層を調べるなど、行政側も独自にレビューのレビューをしているのだなと感じた。議論のなかで出てきたどの層にアピールするかというものは、現代の若者の志向の変化などから難しい問題であると感じた、自分自身、今回のレビューのレビューにかんして勉強不足のまま臨んでしまったので、質問することができなかったのも反省している。
20	5	本企画においては、今まで見えなかった視点から学ぶものが多くありました。それは、特に、「政策で呼びかける対象を考えること」、「トレードオフにある2つの関係のバランス」という2つの視点で実感しました。まず、「政策で呼びかける対象を考えること」は、行革の方から「国民に分かりやすく」という議論における「国民」の対象を誰とするかが難しいと感じたこと、指摘頂いたこと、普段、議論が行われているものでも具体化して議論を行っていくことの重要性を痛感させられました。次に、「トレードオフにある2つの関係のバランス」は、「国民の関心」と「議論の専門性の維持」という2つの関係を議論した時に気づかされました。この1年間、問題を前にしたときに1つの答えを見つけることに集中して、2者のバランスについて考えることが不足していたと感じました。なので、来年はその視点も入れて提言を行っていきたいです。
21	4	準備段階では、行政事業レビューについて名前を知っている程度の認識であったので下調べの最中素朴な疑問点(例えば透明性外部性担保されてるのかや、プロセスと秋のレビューって被っていないのかなど)が浮かびました。浅い知識での発表であったかもしれませんが、議論を通して、それらの疑問点に対する答えであったり、また事業を選定する際の実際の基準であったりを知ることができたように感じます。ただ、もう少し河野大臣から率直な意見をお聞き出来たらなという感じはあります。現場での議論の難しさだったり選定基準に関してもです。しかし、携わっておられる内閣府の方々が限界があるものの中で取り組まれているということは感じました。議論をして、色々私達が誤解していることや、ネットなどを検索するでは分からない現場の状況があることを知り、難しいかと思いますがこのようなところをもっと国民にも分かりやすく周知していってほしいなあと感じました。

学生番号	レビューもある程度経験が積まれ、「レビューをレビューする」ことも必要になっています。今回の提言の作成を経験して、今後のレビューのあり方についての個人的な意見を教えてください。
1	施策レビューをおこなってもいいのではないかと。事業レビューでも他の事業との重複や、見直し対象となった事業の名前を変えた復活などが議論されることも多く、施策単位のまとまりで見ることが必要なのでは。またその施策自体が本当に必要なものであるのかという議論することもできると考える。
2	今回のレビューのレビューでも議論の大部分を占めたように、レビューの仕組み以前に、国民のレビューの認知度の低さが根本的な課題だと私は思う。「『検討する』で据え置かれるものが多い」、「政治的なしなごみのある事業の廃止・改善になかなか踏み込めない」といった、レビューに関してよく指摘される課題も、国民の認知度が上がりレビューへ厳しい目が向けられるようになれば、レビューに対する担当者の緊張感も上がり、改善への動きに繋がるのではないかと感じる。今回の議論でも官僚側が「女性の関心を高めるにはどうすべきか」「国民にとって分かりやすいレベルとはどのレベルか」など初歩的な話題が多かったように、レビューの課題はまだ基本的なところにあると思う。このことから、「レビューは民主党時代の事業仕分けの進化版であること」、「国会で議論した予算がいろいろな事業に有効な形で使われているのかを検証しているのがレビューだ」といったレビューの基本事項を周知するところから始めるべきではないかと思う。
3	レビューは、レビューを生かして更に国民の意見を仰ぐことのできる絶好の機会でもあるが「レビュー」そのものに対するそもそもの知名度が足りていないと思った。また、国民は自分ひとりの意見を挙げたところで国は変わらないと思っている人が多い、それが無関心に繋がっていると思う。テレビの「dボタン投票」や「Twitterのつぶやきを生で放送すること」は最近バラエティやニュース等で活用されているが、それをレビューにも取り入れることが出来ないかと思った。
4	「国民の関心度向上」と「レビュー後の結果反映の在り方」が2つの大きなキーワードになるかと思う。また、実際に事業仕分けに要したコストに対して、事業を見直したことで削減された予算額がいくらになっているのか、開催のコストに見合ったワイズスペンディングが実現されたかの検証も必要であると感じた。
5	私の班でもあがっていた話ですが、現在のレビューには、事業の在り方を正しく評価し、効率化を図ることと、認知度を高めるという2つの重要課題があると思いました。その2点に焦点を置いて、今後のレビューの改善をはかっていく必要があると感じました。
6	真にレビューが必要な事業をレビューし公開するという趣旨は残しつつも、ある程度国民へのアピールや注目を集められるような工夫が必要であると感じました。ターゲットとしては政治参加がより求められている若者中心を意識して、広報の強化やインセンティブの設計などが考えられると思います。より抽象的になりますが、レビューへの参加やコメントひいては選挙等への参加が「クールである」あるいは「当然のものである」という風潮が若者の中で起きる、流行することが一番影響力が大きいと思います。その具体策が難しいのでしょうか…。
7	公開プロセスについて調べる中で、「国民の関心」があまりに低く、公開プロセスの意義が達成されていないと考えていた。その点について様々な対応策を考えたが、行革の方との議論をとおして、「国民の関心」と一言で言っても様々な要素が入り乱れていることが分かった。議論をとおして私が考えたことは、国民が関心を持つのは、自分に利害が及ぶ内容であり、国民が政策を点検するとかかりを作るには、なるべく国民に直接的に影響があると認識されやすい事業を選ぶべきなのではないか、ということである。もちろん政策の多くは一般の国民にとってなじみのないものであり、先に述べたような政策は氷山の一角であると思う。しかし、公開プロセスの意義を鑑みれば、ただ議論の生の現場を公開するだけでなく、ある程度パフォーマンスの要素も入れて、まずは注目を集めることが必要ではないかと感じた。

8	<p>全ての事業に対して網羅的に行う「レビュー」と、重要な政治課題に対する政策が効果をあげているか確かめる限定的な「レビュー」の二つがある。前者については、フォローアップを徹底することで網羅的な改革を行うことができる。後者については、経年的な重要テーマの検証を続けることができる。現在のレビューでは、前者に関しては、網羅的フォローアップには限界がある、後者に関しては、アクションプログラムと重複(重要課題検証とアクションプログラム)している側面もある。今後も、それぞれが有機的な連携を行うなど、レビューのあり方を考えていく必要があると感じた。</p>
9	<p>レビュー自身の費用対効果も考える必要があると感じている。各省が行った自己点検を外部有識者が確認をし、そのうえでその中の一部を「公開プロセス」、「秋のレビュー」という公開の場で再び精査する、という重層的なプロセスがすべて必要であるのか、より効率的な手段はないのか、等を検討することが必要ではないか。</p>
10	<p>今回は秋のレビューを担当していましたが、秋のレビューの役割を明確化する必要があると思います。今の位置付けは省庁の自己点検が甘いものを行革側が指摘するというものなのかなという認識を持っていますが、それなら、よりその部分を明確に押し出すべきだと思いますし、公開プロセスで厳しく審査をし、無駄を省く、秋のレビューでは多くの国民にとってより身近な事業を取り上げ、政策への国民の関心を高めるなど役割分担を行ってもいいと思います。</p>
11	<p>公開で行う意義を考えるとレビューの認知度・国民の視聴数はより増加するのがよいと思う。一瞬議論にもなったが、「誰に知らせるべきか」ということについてもっと明確にしていける必要があると思う。私個人の意見では、「政策に・その分野に興味のある人だけ分かればよい」という状態はあるべき姿ではないと考える。レビューの削減効果以外の質的向上などの面をより分かりやすく国民に見せていく必要がある。</p>
12	<p>前項の内容と重複する部分もあるが、レビューは公平性・公正性の担保のための機関として存在すべきであり、内閣の改造などによる政治的スタンスが変わるたびに行革の方向性が変わるようなことは避けられるべきであると考える。「実情にあった形で」という言葉は一見リアリスティックなようだが、時として都合よく解釈されてしまう。近年ではリーマンショックや震災などで「例外措置」的に様々な施策・事業がなされたが、こういった外部的要因は近い将来にまた訪れる可能性も否定できず、そのたびに例外、例外と言ってはそのたびに目指す先がますます遠のいてしまうだろう。こういったことから、確固たるスタンスでもって事業検証を行うことが重要であると考える。前年度比などによる漸増・漸減主義的判断ではなく、ドラステックな検証を行っていくべきであろう。</p>
13	<p>行政事業レビューの事業レビューシートを見たことがあるかと、事務局の方に聞かれました。私を含めた赤井ゼミ生は、論文を書く際に各種レビューシートを見て、論文の題材を探していましたが、よほどのきっかけがない限りインセンティブがない限りはレビューシートを見る機会はなかなかないと思います。各班の発表に対する指摘にもあったように、レビューそのものの国民の関心を向上させるかは課題なのだろうと思いました。国民がレビューを知るためにそしてレビューを通じて政策のあり方や国民の税金の使われ方、政策決定の仕方を含め、レビューシートのあり方を学ぶ機会は儲ける必要があります。事務局の方は、レビューシートを国民から募集し内閣府が評価できるものに対して何かプレゼントする企画も考えていると言っておられました。最良のレビューシートの作成者に、内閣府や中央省庁のツアーを設けて実際の政策決定現場を無料で見てもらうなどの特典をつければ、国民の関心度も少しは向上しレビューのあり方を見直す機会につながるのではないかと思います。</p>

14	レビュー後に、再度検証する必要がある事業については、重要課題検証以外の枠組みで複数年にわたる検証も視野に、チェックを行うことが望ましい。大学生を活用して関心を高めていくということについても賛成です。
15	レビューをレビューするということは、今後重要な課題であるといえる。今回私たちが提言した国民の関心についても、やはり検討の余地があると感じるし、秋のレビューやフォロー体制も含めて、今の在り方が一番効率がいいのかはもう一度検証しなければならないと思った。
16	レビュー行ってそのまま放置するのではなく、レビューをより効率的で効果があるものにするためにもレビュー自身を見直すということは不可欠だと思う。学生目線での提案は実現可能性に問題のあるものも多いかもしれないが、学生に対してのレビューの知名度が低い中、国民の中の学生に対してレビューを周知する上で、当事者である学生の視点からの意見は相手方にとっても新鮮なものがあったのではないかと思う。
17	得られたレビューの蓄積をもっと活かすというか、無駄にしないことがより重要だと考えます。継続してレビューを行うことによって、数年単位でレビューにピックアップされる事業も出てくると思いますが、その際に以前に受けた指摘と逆のことだったり、指摘を反映した内容について再度突っ込んだりといった、レビュー上での無駄があり得るのではないかと思うので、事業や施策ごとにみたレビューの歴史を理解したうえで、レビューのレビューが必要になるのではないかと思います。
18	環境不動産班の発表のなかでもありましたが、行政事業レビューをどういう目的で、何のためにやっているのかが不明瞭なので、その部分を明確にさせる必要があると思います。また、事業が適切になされているかをチェックするというのは国民には分かりにくいので、国民には、「〇〇億円の予算削減」というように数字で発信することが重要だと思います。
19	レビューとして外部に公表する以上、興味関心をもってもらうために話題性の高い題材を選ぶなどパフォーマンス的要素の強い部分があると思う、それと地味だが緊急性の高い題材の配分が重要になると感じる。また、このようなプロセスは出来レースの部分もあると思うのでそのようなところに無駄があるなら対処していくべきだと思う。
20	今後のレビューでは、「事業の正確な検証」という視点とともに、「事業の効率的な検証」という視点を入れるべきだと考えました。事業レビューでは、多くの省庁が事業の改善を行い、成果を上げてきています。しかし、今回の準備の際に、その時間が他省庁にとって負担となっているという意見をHPで見つけました。レビューの質の維持と、業務の削減を両立する方向に進んでいくことで、レビューの質がさらに向上すると思います。
21	私個人としては、マスコミとの連携といいますか、国民にどう宣伝していくかがこの事業の実現度や目標の達成度に寄与するのではないかと考えます。とりあえず、国民における認知度がまだまだ足りませんし、これではいくら二コ生などで放送しても公開性には繋がりません。政治とマスコミは良くも悪くも深い関係をもっているのなら、それを利用すべきですし、それが自然とレビューをレビューするということに繋がると思います。

学生番号	交流会で学んだこと <大臣との会話の感想なども含めて、交流会での内閣府職員との意見交換での感想と意義など。>
1	大臣がいらっしやるということを知った時には思わず声が出てしまった。おもっていたより砕けている方で、お話を伺いやすかった。ぜひほかの方と比較してみたいです笑。中華料理はかなり辛かったのですが美味でした。
2	交流会で感じたことは主に二つある。1つは、大臣と直にお話をさせていただくことを通して、政治家のオーラを生で感じることができ、とても貴重な機会となった。特に、政治家が話すときの言葉の選び方や話の組み立て方などは「さすが演説のプロだな」を感じ、とても印象に残った。もう一つは、官僚の方たちがいかに将来の日本のあり方を日々考えているか、彼らの強い気概を感じたことだ。「将来のために、今から日本はこういう流れを作っていくべきだと自分は思う」といった熱い思いを聞き、官僚に対する印象が変わっただけでなく、彼らの仕事の大きさを改めて感じた。
3	大変忙しいところ、貴重な時間をつかって大臣も参加してくださり本当に嬉しく思った。学生に対し、ゼミ活動や就職活動に関する質問を投げかけてくださり、お話することができて、学生のうちにこのような機会を持てたことに感激だった。
4	大臣にもお越しいただき、非常に名誉なことだった。また様々な省庁出身の業界事務局の方とお話し、将来へのビジョンを考えたり、これからの日本を担うという自覚を改めて持つに有意義な時間となった。社会人になっても、常に学び姿勢を持ち続け、成長することが大事だと感じた。
5	大臣とお話しできたのは本当に感動的で貴重な経験をすることができました。内閣府職員の方々とも、省庁の実情や仕組みについて理解を深めることができ、とても意義のある時間を過ごすことができました。(個人的には来年社会人としてどのような振る舞いが必要になってくるか体感できたと思います。)
6	中央官庁で働かれている方の志の高さや日本に対する思いに強く尊敬を感じ、来年から社会に出る身として気が引き締まったというのが一番でした。また、大臣とお話しするという機会には本当に驚きましたし、感動しました。
7	河野大臣の突然の登場にはとても驚いた。日本の価値観で収まるのではなく、もっと世界標準の考え方を身につけなさいという大臣のお言葉も、日本の未来を担う若者への願いなのだと思います、有り難く心に刻もうと思った。また、国会答弁の対応のために、交流会の最中にも忙しく電話やメールのやり取りをし、会が終わったあと、まだみんな仕事をしているからと霞が関に戻っていかれる方の姿を見て、改めて、すごい方々にお相手をしてもらっていたのだなと感じたことが印象的だった。



8	懇親会では、官僚の方の熱い思いを感じることができた。政治家との関係について、間違っていることなら伝え、最後まで折れないマインドがとても尊いと感じた。これは、仕事にたいする熱意という面からキャリア形成の上で参考になった。大臣とのお話では、普段では窺い知れない政治家の考えを聞くことができ、貴重であった。時間の制約もあったため深くはお伺いできていないが、大臣は信念にまっすぐと感じ、興味深かった。
9	内閣官房は様々な省出身の方がいらっしゃるの、それぞれの省庁の仕事内容や特徴、雰囲気などを聞くことができ良い経験になった。また、どの方も気さくに話しかけて下さり、仕事について質問すると端的にわかりやすく答えて下さったのが印象的だった。
10	内閣府の職員の方は様々な省庁から出向してきている方が多く、それぞれの人から、違う見地のお話を聞くことができ、非常に有意義でした。大臣とはそれほど多くは話すことができませんでしたが、国の政策の責任者の一人である大臣とお話できたのは非常に貴重な体験でしたし、赤井ゼミでしかできないことだったと思います。来年度もこのような貴重な経験を出来るように努力したいと思います。
11	まさか大臣にここまで参加していただけていなかったの、心から驚いた。海外に行け、夢を大きく持てと何度も大臣がおっしゃっていたことが印象的だった。また、内閣官房や大臣秘書の方と、なぜその様な職を選んだのかという話を多くし、それぞれが抱えていた抱負や夢を知れたことが大変参考になった。
12	行政の方々は機知にとんだ方々ばかりで、行政に関する見方や考え方について、様々な示唆を受けた。大臣は歯に衣着せぬ物言いで有名であることは知ってはいたが、海外志向を持つこと、縮こまった発想をしないことなど、世の中を俯瞰できる立場の人間だからできるアドバイスで、自分の将来像についても一度冷静に考えて直してみようと思う。
13	交流会にまさか大臣が来られると思っていなかったの、来られた瞬間は驚きました。大臣というポストのイメージからか、敷居が高い感じもしていましたが、実際にお話すると、学生に対してとても気さくに話して下さいました。他の行政の方も、省庁との調整過程をお話して下さいました。また赤井ゼミの活動にも興味を示して下さいましたことが大変嬉しかったです。今後もこうして実際に政策決定に関わっておられる方々のお話を直接聞く機会があればと願っています。
14	現役の大臣が、大学生との懇親会に参加されて、とても驚いたし、このような貴重な機会を与えて下さった関係者の皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。
15	大臣が来て下さったことは非常に感動した。普通の一学生では味わえない経験だと思った。また、行革のみなさんと屋間の会場では話せなかったような濃い内容のお話や、国家公務員のお仕事に関するお話をさせていただけたことはためになった。

16	レビューをレビューするでは大臣が遠くに座っていたのでよく見えなかったが、懇親会で近くで見ることができ実際に大臣がどのような考えを持っているのかどのような人となりなのかを体感することができた。初めの方は生徒が固まっている場所に座っていてあまり内閣府の職員のかたとお話できなかったが、後半の方に勇気を出して職員のかたが座しているところに自らお話を聞きに行き、自分の将来に向けてのアドバイスを聞くことができたのは大きな収穫だった。
17	大臣がサプライズで現れた際には、率直に言って、感動しました！おそらく政治家の方にお会いしたこと自体が初めてで、その相手が河野大臣でとても喜ばしかったです。また、府省の方から話を聞いた際も、思ってもない裏話が聞けたり、自分の将来について考える機会になったりと、非常に貴重な機会となりました。
18	河野大臣が登場したときには本当に驚きましたし、とてもうれしかったです。自分たち学生の発表に、一大臣が耳を傾けてくれ、交流会にも来ていただき、学生のことを気にかけてくれたことは、「学生が政策提言を行う」ということに意味があるということを知りやすくなる感じがしました。
19	職員の方とは、今話題になっている問題の個人的な意見や各省庁の雰囲気などをお話していただきとてもいい経験になった。大臣に関しては、テレビ・レビューのレビュー・懇親会のいずれでも話し方やその内容に違いはなかったのが裏表のない方なのだなと感じた。
20	河野大臣に発表を聞いていただけただけでも、光栄なことでしたが、交流会にも足を運んでいただき本当にうれしく思ったのと同時に少し緊張してしまいました。しかし、実際、大臣とお話をさせて頂くと気さくな方で、楽しい時を過ごすことが出来ました。「10年間外国に行って日本に戻って来い」とのお言葉を頂きましたが、そのお言葉も、場を和ませて頂いたと同時に、大臣からの熱いメッセージとして受け止めさせて頂きました。また、内閣府職員の方は、一人一人、個性豊かな方が多く、楽しいお話を聞かせて頂きました。
21	登場されたときは本当に本当に驚きました、たぶんこの東京での出来事でトップです。人生で一度あればすごいともいえる大臣との会話という経験をさせてもらい、圧倒されてばかりでしたが、気さくな方でいい経験になりました。また内閣府職員の方々も皆さん気さくで、思ったよりも皆さんが真剣に国の政策について変えようとしていること、悩んでいることを感じました。

学生番号	今後、価値ある活動として、どのような発表・議論の場を希望しますか？(3・4回生は、昨年までの模擬事業レビューと今年の企画の比較も含めて今後のあり方を書いてください。)
1	<p>模擬事業レビューをあのような形式で続けていくのは事務局の方の負担も考えると難しいような気がします。それであれば、政策提言ツアーでの知りたいこと、聞きたいことを考え、そこでの議論をより豊かにするための努力に力を注ぐべきだと感じました。新しい活動を提案するとすれば、職員側に学生が回ってみて模擬レビューを行うというのはいかがでしょうか。かなり準備は大変だとは思いますがとても勉強になると思います。</p>
2	<p>理想を言えば、昨年までのレビューに加えてレビューのレビューをするのが望ましいと思う。2年生にとっては通常のレビューを経験せずにその仕組みに関する提言を考えることは難しいのではないかと感じるからだ。レビューを通して官僚と直に政策を議論することも、レビューをレビューしてその問題点を話し合うことも、どちらも価値ある活動であるし、両方を行うとさらに意義のある活動となると思う。</p>
3	<p>昨年に引き続き、今年も「学生が議員と議論」したことが、いくつかのメディアにも取り上げられ発信された。赤井ゼミは引く張る立場として、こういった機会を赤井ゼミだけのものではなくより多くの学生も巻き込むことが出来ればいいのではと思う。</p>
4	<p>学生が官僚と交流できるだけで有意義ではあるが、単に発表を行うだけでなく、やはり実際に研究した分野に近い事業に関してレビューを体験するほうが、知識もあり、また研究からの学びをさらに深められるため、より学びの多い機会になる気がした。また説明者側の立場を学生が担っても面白い企画になるかもしれない。</p>
5	<p>昨年までと比べ、今年はレビュー自体を調べる必要があったので、知識量が少なく大変そうでした。その点では、去年までの模擬事業レビューの方が内容が濃かったと思います。今回提言した、大学での事業レビュー評価を赤井ゼミで実現してほしいです。</p>
6	<p>昨年までと比較し、今年は論文とテーマからは離れて、一からレビューについて調べ勉強しなければならなかった分、時間的厳しさはあったように感じます。来年度以降、事業レビュー大阪大学出張版を実現し、赤井ゼミや山内ゼミ生が専門性を活かして参加できればと思います。</p>
7	<p>昨年までと今年が一番の違いは、まさにその政策に携わっておられる方と議論をした点にあるのではないかと感じる。(記憶では、昨年はこちらが選んだ事業について官僚の方も勉強して、来てくださっていたと思いました。)学生の提案なので甘い点が多いとは思いますが、政策について勉強しているいち一般国民とプロとの意見交換として、話を聞いてもらえる場はそれだけでも非常にありがたいものであると感じる。今後は、この輪がもっと広がるように学生側の参加者も増えればいいなと思う。</p>
8	<p>従来のレビューでは、担当者との意見交換なので、提言ツアーと内容に重複がおおい。また、「資料がない」で回答を濁されることもあり、そうであるならば、行う意義も感じない。そのため、あまり有効な時間の使い方ではないと感じる。もし(大臣の仰るように)行うのであれば、双方で有意義に使えるよう、事前に質問を送る答弁のような形でもよいと感じる。今回の活動は、レビュー自体にフォーカスしているため今までのものとは別個だと感じている。今回ほど大々的ではないにせよ、隔年くらいでもういちどあり方を考えてみるのもよいと感じる。</p>
9	<p>昨年までの模擬事業レビューは、論文で取り組んでいたテーマに関連するものであり、よく知った内容に関して議論することができたのでより具体的な話ができたが、今回は、1月2月と調べ考察する期間が短かったこともあり、担当の方と対等に議論できるまでのレベルに持っていくことができなかったという反省がある。ただ、企画の趣旨は非常に面白いものであったため、準備時間を確保できるようにすれば今後も同じような形式でよいのではないかと感じた。</p>

10	<p>模擬事業レビューでは自分たちの調べてきた内容について、有効な政策が行われているのかについて考えることができましたが、来てくださる方は実際にその事業に関わっている方ではないので限界があったと思います。今回は行政事業レビューに関わっている方に対して提言を行うことができたので、その面では質は上がったと思います。ですが、逆に私たちの知識があまりなく、その面で少し難しい面があったと思います。次回はSFJが終わってからすぐに準備を始めるなどして、私たちがしっかり勉強してから臨みたいと思います。</p>
11	<p>模擬レビューは今までの研究の延長線上にあるものだったが、レビューのレビューは全く新しいものであったので、刺激的で面白かったがやはり準備不足を感じた。レビューのレビューは毎年やるようなタイプの活動でもないと思うが、もしやるのであればもう少し準備を前倒しにしていけばと思う。</p>
12	<p>新しい企画の案としては、学生側が論文で提言した内容について、行革を交えてレビューする、といったものが考えられると思う。一方的に提言して、それに対してコメントをもらうだけでなく、行革側の目の付け方などが学べるため、有意義なものになると考える。</p>
13	<p>ゼミに入って1年で、大臣の前で発表できる機会が実現できるとは思っていませんでした。省庁訪問とともに、気が引き締め本当に貴重な時間でした。国会での質問に呼ばれていた大臣にとって時間が限られていたことはもちろん理解できますが、発表後少し時間があったので、全ての班に対してフィードバックをして頂けるような進捗を行政の方にさせて頂きたかったと思いました。</p>
14	<p>今年度の取り組みは初めてということで、3回生と試行錯誤しながらだったが、論文以外でここまで議論を深めて発表の形まで持っていき、さらに行政の方と意見交換をするという経験はとても有意義なものだった。今後も、あるテーマ(行政側から見てやってほしいものなど)について行政の方にプレゼンするという機会会ってもよいと思った。</p>
15	<p>今回のレビューのレビューはかなり考えさせられる内容だったので、続けていけるといいなと思った。しかし質疑応答の時間がすこし短く感じたのもうちよつと議論を深化できる時間配分だったらよいと思った。</p>
16	<p>学生の視点が必要とされている場で、学生の力が役立つような発表や議論を行いたい。具体的には教育系など学生にとって身近で、学生が日々の生活で問題意識を感じているテーマなど学生にとっても議論をしていく相手方にとっても有益な場が欲しい。</p>
17	<p>昨年の模擬事業レビューを経験していないので、やってみたいという気持ちはあります。また、予算に関する事など何か、学べる機会があればと個人的に思っています。</p>
18	<p>今は大阪府と、論文に関わる省庁で発表・議論の場があるが、論文を書く中でのヒアリング先にも発表することができたらおもしろいかもしれない。</p>
19	<p>今回の霞ヶ関ツアーでは、深く意見交換をできたのは内閣府の方々のみであった。できることなら、せめて自分の書いた論文のテーマの省庁の方との意見交換があればよりそのテーマに関しての理解が深まるように思う。</p>
20	<p>今年度は、事業レビューの制度について焦点を当てましたが、レビューの反映状況やその適合性などのみについて焦点を当ててみるべきであるかと思いました。</p>
21	<p>今後も、今年のような形を引き継ぐことがよいと思います。行政事業レビューを動かしている内閣府職員の方々や大臣と直接、しかも長時間に渡って議論させていただいたり、色々なお話しができるというのは本当に光栄な機会だと感じます。</p>



大学生から改善点などの提案を受けた意見交換会。左端は河野行革相。25日午後、東京・霞が関で

大学生が改善点提案 事業レビューで行革相に

政府は25日、中央省庁が事業に無駄がないかを自主点検する「行政事業レビュー」をめぐる、大学生との意見交換会を東京都内で開いた。学生は国民の関心を高めるため、点検対象事業の選定に学生を含む国民が参加するなどの改善策を提案し、河野太郎行政改革担当相は「一つでも二つでも実現できたらいい」と応じた。

外部の目で点検の在り方を検証する初の試み。選挙権年齢が夏の参院選から「18歳以上」に引き下げられるのを前に、若者の政治参加意識を高める狙いもありそうだ。

有識者としてレビューに

参加した経験のある大阪大大学院の赤井伸郎教授が開催を持ち掛け、ゼミで学ぶ約20人が出席した。河野氏は冒頭で「良い提案はどしどし受け止めたい。大胆に検証してほしい」と呼び掛けた。学生は電話やインターネットの投票で点検対象を選ぶ案や、全国の大学に出向いて公開点検を行う案も示した。

行政事業レビューは、翌年度予算の概算要求前に省庁内で無駄を点検。「秋のレビュー」と呼ばれる公開点検で有識者が事業の目的や成果をあらためて検証し、結果を予算案に反映させる。